La luz Collection

Tableware

りきゅうばし

利久箸

両端を細く削った杉の箸。
杉の芳香も楽しめる割り箸です。

利久箸の特徴・・・

- ○ 利久箸は片方だけでなく両端が細く削られているのが特徴です。
- ○ ネーミングの元となる千利休は客人をもてなすとき、自ら杉の木を削って箸を作ったと言われています。
- ○ 杉の木香りを楽しめる「利久箸」はおもてなしの『箸』として、主にホテルや料亭などで使用されています。

30膳（PP袋いり＋中紙）

間伐材

りきゅうばし
利久箸

1膳（箸袋入）	109100	¥40
30膳（PP袋いり＋中紙）	109101	¥800
1,000膳（PP袋いり＋中紙）	109102	¥25,000

素　材：杉
仕上げ：無塗装
サイズ：長さ 270（9寸）
ＬＯＴ：1膳/ 30　30膳/ 1　1,000膳/ 1

1膳（箸袋入）

子どものための食器

お子様にやさしい天然木素材の食器。
御出産祝いやお食い初めにぴったりの、子どものために考えられた食器です。
上質でシンプルなデザインになっていますので
お子様が大きくなってからも長年使える商品です。

子どものための食器

112080　¥21,000　在庫限り

サイズ：プレート小　140 × 140 × 23
プレート大　170 × 170 × 18
ボウル小　100 × 100 × 50
ボウル大　110 × 110 × 70
コップ　65 × 65 × 70
箸　145
箸置き　50 × 15
素　材：カバザクラ（プレート、ボウル）
サクラ（箸）
陶器（コップ、箸置き）
綿布（ふろしき）
仕上げ：ウレタン（木部）
ＬＯＴ：１
※ボックス入り

ギフトに最適

在庫限り マークの付いた商品は在庫がなくなり次第廃盤となります。在庫数等はお問い合わせ下さい。

食洗機
不　可

選べる全 20 色

にっぽん
伝統色箸

四季の豊かな日本。
その風土から生まれた日本ならではの伝統色には、
日本人独特の美意識と暮らしの知恵が息づいています。
繊細で美しくいろとりどりの日本の伝統色で、
和の魅力をお楽しみください。

天然竹を使用し
若狭塗りで仕上げた
色鮮やかなお箸です。

天然竹

若狭塗り

カラーが映える
シンプルな什器。
組み替え自在の
セパレート仕様。

パッケージが生きるナチュラルなディスプレー什器をご用意。2台に別れているから、飾る場所を選ばず、組み替え自在。ディスプレーのアイデアが広がります。

10マス用
●サイズ／285×235×245㎜

杜若色（かきつばたいろ）
杜若の花のような色。青みがかった紫色に用いられます。
もともと杜若の花の汁を摺染めをしたところからきています。

紺青色（こんじょういろ）
紫みがかった深い青色のこと。ちなみに群青とは、その名のとおり青が群れ集まるという意味です。日本画には欠かせない色。

唐紅花（からくれない）
紅染めの濃い色、紅色よりやや黄色がかった色を指します。
韓（唐）は舶来の意味と、それから転じて美を賞美する雅語です。

蒲公英色（たんぽぽいろ）
タンポポの花のような色。鮮やかな黄色を指します。
春、野原や道端に咲く黄色い花は、日本人にとっても馴染みの深い花といえます。

蜜柑茶（みかんちゃ）
蜜柑色より少し茶色がかった色。大正時代に大衆の間で流行し、言われ出した色名です。茶色としてはかなり鮮やかな色と言えます。

栗皮色（くりかわいろ）
黒みがかった赤褐色のことです。その名の通り栗の皮の色に似ていることからこの色名がつきました。

漆　黒（しっこく）
黒漆塗りのような艶やかな黒色、純粋な黒。
深い味わいがあり、さまざまな色を引き立て自らも輝く色。

古代朱（こだいしゅ）
漆の色の一種。つや消しで渋みのある茶がかった朱色。
華やかさもあり、どんな色とも相性が良い。

茄子紺（なすこん）
茄子の実のような暗い紫色。江戸時代から使われるようになった色名。着物や陶器などに使われる。

若葉色（わかばいろ）
若葉のような瑞々しくフレッシュな淡い黄緑色。
季語は春ではなく夏。草木の息吹をイメージさせる。

常磐緑（ときわみどり）
常緑の樹木、松や杉の濃い緑の葉の色。
平安時代からある色で和服や小物に使われる。

藤　色（ふじいろ）
藤の花の色、紫のもつ高貴さをすこしソフトにした藤色は昔から女性に好まれる色。

藍　白（あいじろ）
藍染の最初の過程にできるきわめんて薄い藍色。
白地に少し藍をかけて白さを消すことから白殺しともいう。

紺　碧（こんぺき）
藍色が海の色のイメージなら、紺碧は雲ひとつない快晴の空の色。
輝かしい、鮮やかな、澄んだ美しい青。

素　色（しろいろ）
少し色のついた白。天然素材そのままの自然な色。
白より馴染みやすくナチュラルなイメージが人気。

山吹色（やまぶきいろ）
古今集では梅、桜、藤に続いて春の終わりを告げるのが山吹の花。
いにしえの貴族がもっとも好んだ黄色。

桜　色（さくらいろ）
桜の花のようなほんのりと色づいた淡い紅色。
紅花は高価で、少量の紅花でそめる桜色は人気が高かった。

桃花色（ももいろ）
4月から5月頃、葉の開く前に美しく咲く桃の花のような淡い紅花染の色。柔らかな中に華やかさのある色。

深　緋（こきひ）
紫みの暗い赤色で、あかねと紫で染めたもの。
延喜式では緋を深・浅に分けていて、濃い方が深緋。

柿　色（かきいろ）
やや赤みの強い橙色。渋柿の実がまだ青いうちにとり、それを砕いて液にした渋柿や弁柄で染めた色。

伝統色の
上品な色を
引き立てる
パッケージ

にっぽんの伝統色箸　各 ￥1,000　食洗機不可

杜若色（かきつばたいろ）	107660	常磐緑（ときわみどり）	104614
紺青色（こんじょういろ）	107646	藤色（ふじいろ）	104621
唐紅花（からくれない）	107716	藍白（あいじろ）	104638
蒲公英色（たんぽぽいろ）	107684	紺碧（こんぺき）	104645
蜜柑茶（みかんちゃ）	107745	素色（しろいろ）	104652
栗皮色（くりかわいろ）	107721	山吹色（やまぶきいろ）	104669
漆黒（しっこく）	104577	桜色（さくらいろ）	104676
古代朱（こだいしゅ）	104584	桃花色（ももいろ）	104683
茄子紺（なすこん）	104591	深緋（こきひ）	104690
若葉色（わかばいろ）	104607	柿色（かきいろ）	104706

素　材：天然竹　　仕上げ：漆
サイズ：長さ 230　　ＬＯＴ：５